のどがかわいた（光村図書５年）

久井南小学校　　山本　明日香

（1）教材について

寄宿学校での人間関係を少ない表現で、しかし如実に表している物語である。主人公のイタマルは決して真面目なよい子ではなく、気が強くてわがままで頑固。対してミッキーは目立たなくておとなしいという、相反する関係である。そんな２人の関係が「のどのかわきを感じられる」という共通点から一気に深まっていく。

５年生という児童の発達段階から、大変共感しやすく、読みやすい物語である。「絶対に仲良くはならないだろう」という児童の予想に反して、物語の終末では、好きな女の子の話をするほどの親友となる。４月初めの物語にふさわしく、物語を読むことを通して、改めて友達との関わり合いについて考えさせるのによい教材である。

（2）学習目標について

①価値目標

国語科「読むこと　オ」では、「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。」が指導事項となっている。そこで、５学年の道徳２－（4）「謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする」と関連付けて、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえて、作品について自分の考えをもち、それを発表して広げたり深めたりすることができる。」を価値目標として位置付ける。

②技能目標

（ア）読み取ったことと感想、意見などとを区別して書くことができる。

（イ）文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。

③態度目標

ブックトークについて知る。

「人物の関わり合い」に関する作品を読むことに興味をもつ。

（3）言語活動と活動目標

◎「人物のかかわり合い」をテーマに、ブックトークをしよう。

ブックトークをすることで、紹介する本に対する自分の意見をもつことができ、また、友達の紹介を聞くことで、友達の考えを知ることもできる。本を読みたいという意欲を喚起し、自分の見方・考え方を作っていくきっかけとなる活動にしたい。

導入時に児童にブックトークをすることを伝え、単元に入るまでに本を用意させておく。その際に、教師がブックリストを作っておき、その中から選んで良いようにしておく。

(例)

作者名	タイトル
あさのあつこ	The MANZAI
アーノルド・ローベル	ふたりはともだち
エーリヒ・ケストナー	ふたりのロッテ
レイフ・クリスチャンソン	ともだち

全３時間扱いの単元であり、紹介を簡単にする程度にする。今後の読書活動へとつながるブックトークにしていきたい。

（4）方法と評価

	言語活動	学習目標	評価方法
導入	ブックトークについて知る。	○ブックトークについて知り、意欲をもつ。	【関】 ブックトークに向けて物語を読もうとしている
展開	①人物の関わり合いに着目して「のどがかわいた」の全文を通読し、イタマルとミッキーの関係がどう変わったのかを話し合う。	○イタマルとミッキーの人物像を読み取ることができる。	【読】 イタマルやミッキーの様子や言動から、二人の人物像を読み取っている。 （ノート）
		○イタマルとミッキーの関係を変えるきっかけとなった出来事をとらえ、二人の関係の深まりを読み取ることができる	【読】 人物の心情や関わり合いが分かる叙述に線を引き、二人の関係の深まりをとらえている。 （ノート）
	②「のどがかわいた」のミニブックトークを開き、感想を交流し合う。	○構成に気を付けて感想をまとめ、友達と交流することができる。	【読】 自分の感想と友達の感想を比べながら聞いている。 （行動観察）
終末	「人物のかかわり合い」をテーマに、ブックトークをしよう。	○構成に気を付けて発表し、友達と交流することができる。	【話・聞】 発表の交流をし、ブックトークをすることができる。

（5）おわりに

本教材を授業で行った際、「読む」活動に時間がかかり、感想を交流するだけに終わってしまった。しかし、感想の中からは、「二人は，湖に丸一時間もつかってもあきない親友になった。」「どんどんイタマルとミッキーの関係が深まっていてすごいなあ。」「別の本でこの続きがあればぜひ見てみたい。家族にも見せてあげたい。」という意見が出ており、大変教材に興味・驚きをもって学習したといえる。次回行う際には、是非ブックトークを取り入れて授業を行っていきたい。